

こどもと健康

NO・140

2013・10・21

インフルエンザワクチンを接種しよう！

秋になると、インフルエンザワクチン接種が始まります。インフルエンザは毎年多かれ少なかれ、流行がありますので、流行が始まる前に接種しておく必要があります。今のところ、インフルエンザの流行はなく、感染症サーベイランスでも先週大阪府下300の医療機関で5例程度、全国でも150例程度の報告に過ぎません。沖縄県が最多で定点当たり、1.0となって流行が始まりました。例年、大阪では12月に流行が始まり、年明けから3月頃が流行のピークです。遅くても、年内にワクチン接種を終わらしましょう。13歳未満の子は4週間間隔で2回接種します。「インフルエンザワクチン接種はいつから?」「今でしょう!」となります。

インフルエンザワクチンの予約について

インフルエンザワクチンの予約を受付中です。携帯電話、パソコンから下記アドレスにアクセスして予約をお願いします。13歳未満は2回接種ですので4週間隔(3~5週で可)で2回とも予約して下さい。接種料金は1回2500円です。ワクチンが無くなり次第、受付は中止します。

<http://0722977771.com/i/>

RSウイルス感染症、流行中！

例年、寒くなるとRSウイルス感染症が増えてきます。このウイルスの感染力は強く、保育所を中心に流行します。インフルエンザウイルスと同じく、冬のウイルスですが、今年は昨年同様9月から流行しています。潜伏期は4~5日で鼻水、鼻づまり、咳があり、発熱を伴う事もあります。特に、6ヶ月未満の乳児が罹ると、更に喘鳴(ヒューヒュー、ゼーゼー)を伴った咳をして呼吸数が増え、陥没呼吸をします。ウイルスを含んだ鼻汁や分泌物が気管支に流れこむ為、気管支炎から細気管支炎が起こるのです。次第に哺乳できなくなり、新生児では無呼吸になることもあります。気管支炎、細気管支炎から気管支肺炎となることがあるので、注意が必要です。ありふれたウイルスですので、1歳までに半分、2歳までに殆んどの子が一度は感染を受けますが、初感染の時に最も症状が強く出ます。何度でも罹患しますが、年長児になると次第に症状は軽くなり、鼻カゼ程度で終わる子もいます。お母さんからの免疫移行がない為、新生児でも罹患して重症化することがあります。寒くなるにつれて増加し、去年は年末に流行のピークとなり、春まで流行が続きました。泉北ニュータウンでも流行している保育所があります。RSウイルスの迅速検査がありますので、ヒューヒュー、ゼーゼーを伴う乳幼児は早めに受診しましょう。

11月15日(金)午後の診療を休診させていただきます。

11月から13価小児用肺炎球菌ワクチンに

本年4月から定期接種となった小児用肺炎球菌ワクチンが7価から13価ワクチンに強化されます。93種ある肺炎球菌のうちこれまでは7種でしたが、13種が入ったワクチンが使用できるようになります。1回でも7価ワクチンを接種した場合も、11月1日以降に接種する時には13価ワクチンを接種します。初回3回と追加接種の4回接種は変わりません。尚、既に7価の接種が終了した6歳未満の幼児も残りの6種の免疫をつける為、1回だけ任意接種(有料)を受けることができますので、ご相談下さい。

風疹の流行、終息に向かう！ 先天性風疹症候群増加中！

昨年から関西で始まった風疹の流行は、今年になって関東に拡大、その後ふたたび関西でも流行しましたが、大阪ではやっと流行は終息したと思われれます。しかし、心配していた通り先天性風疹症候群が増加してきました。2004年に全国で10例の報告がありましたが、その後7年間で5例(うち3例は東南アジアからの輸入例)に過ぎませんでした。所が昨年秋から関西を中心に5例が、今年になって10月17日現在、関東を中心に15例が報告され、東京都が8例と最多で、大阪でも最近相次いで2例が報告され今年になって3例となりました。関西では4月以降に流行しましたので、今後先天性風疹症候群の児が増加する恐れがあります。

全国的にも今年の流行はこのまま終息するでしょうが、来春再び流行する可能性があります。予防にはワクチン接種しかありませんが、妊婦さんにワクチン接種はできませんので、ご主人始め同居家族が風疹ワクチンを受けるようにして下さい。1回しか接種を受けていない世代の24歳以上で(23歳以下でも高校3年生の時に2回目のMRワクチン接種を受けなかった人も)将来妊娠を希望する女性は今のうちにワクチン接種を受けて下さい。

B型肝炎ワクチンを接種しましょう！

本年4月から予防接種法が改正され、ヒブワクチン、小児用肺炎球菌ワクチン、子宮頸癌予防ワクチンが定期接種となりました。今後、水痘(みずぼうそう)ワクチン、ムンプス(おたふくかぜ)ワクチン、B型肝炎ワクチン、成人用肺炎球菌ワクチンに拡大されることが期待されます。それまでは任意接種で対応するしかありません。1992年にWHOは加盟国に接種勧奨し、現在では加盟193カ国中177カ国で定期接種化されており、残念ながら日本は数少ない国になっています。日本人の1~2%程度には症状のないキャリアー(健康保菌者)がいますが、血液だけでなく唾液、涙、汗、尿、精液等にもウイルスは検出されます。保育所、幼稚園、学校等集団生活により感染する可能性があります。キャリアーは数年~数十年後にB型肝炎、肝硬変から肝臓に進行しますが、現在日本では肝臓で亡くなる方が約3万人、その3分の1がB型肝炎によると言われます。B型肝炎ワクチンは癌予防ワクチンと考えられます。いつでもワクチン接種は受けられますが、幼少期に感染を受けるとキャリアー化しやすいので、早めに接種をしましょう。生後2カ月から接種できますが、ヒブ、肺炎球菌、4種混合ワクチンが済んでからでも良いでしょう。

かたぎり小児科ホームページ！

<http://www.katagiri-shounika.com/> 又は、「堺市 かたぎり小児科」で 検索。